

④稲城の丘を翔る・上（西東京 RS 交流戦）

2020年11月04日

前日からの雨、当日も朝の8時まで雨予報。今日は気温も低いし、「開催はむずかしいかなあ」と思っていました。が、西東京RSさんから「開催します！」との連絡。見事に天気予報の当たり！稲城市の空は雨も上がり、薄日が差しぐんぐん気温も上がってゆきました。

西東京ラグビースクール（以下、西東京RS）主催のミニラグビー3年生から6年生の交流会が、麻生RS、川崎RS（6年生のみ）の3校による実施となりました。西東京RSも新型コロナウイルス感染拡大の影響により夏まで練習を見合わせていた、とのこと。今年度初めての交流会。参加してくれたスクールのみみんなも始めはちょっとこわばった顔をしていましたが、練習・試合が始まると徐々にその顔も元の小さなラグーマンになってゆきました。

ここで西東京RSの紹介をしておきます。

東京都の多摩地域（多摩市・八王子市・国立市・稲城市・府中市など）を中心に活動しているスクール。スクールの目指すラグビーは次のとおり。

『子どもたちの「ランニング能力を最大限」に引き出し、「ボールをもってゴールへ向かうラグビー本来の魅力」をチーム全員が体感することを目指しています。幼稚園児から中学生までが「思いっきりラグビーを楽しめるスクール」』

ホームページ：<http://www.ntrs.or.tv/>

Facebook：<https://www.facebook.com/ntrs.rugby/>

今年度は、両スクールともまさしくコロナ禍の下、なかなか試合ができない状況が続いていました。この交流会を通じてスクール生に試合感覚を確かめてもらう、ラグビーを思い出してもらう、初めてラグビーの試合を体感するなど参加してくれた子どもたちの想いは各自各様ではなかったでしょうか。コーチ陣もそれまで練習してきたことが出来ているか、ラグビーを楽しんでいるか、タックルしたり、されたりでびっくりしていないか、などコーチ陣もみんなの様子、試合の感触を確かめる貴重な機会となりました。

試合が終わって自宅に戻る車の中、ひとりひとりのスクール生がきっと試合に出た時の想いを語ってくれたことと思います。試合に勝ち負けは必定です。でも、試合を行える相手がいるからこそ、その想いを味わう、感じることもまた子どもたちの成長には欠かせない必須の栄養素です。コロナ禍でラグビーができなかった経験をしたからこそ、その想いがひとしおだったのではないのでしょうか。

保護者の皆さんは、遠くから見るわが子の気持ちはどうでしたでしょうか。何となく、ボールを落としてしまったこと、ボールをモールで奪われたこと、タックルを決めることができなかったことなどが気になったりしていませんか。ですが、試合に出て、真剣に相手にぶつかる、精一杯走る、チームメートを信じてパスを投げる、などラグビーならではの経験を小学生から味わえることは本当に貴重です。